

森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会発表概要

① 活動報告課題名

吉野川源流—水源地の森を守る

② 発表団体名

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

③ 発表概要

1. 吉野川源流—水源地の森の概要

- ・吉野林業地 奈良県川上村に残された天然林
- ・水源地の森の生態系

2. 水源地の森での体験学習

- ・水源地の森ツアー
- ・森と水のワークショップ

3. 水源地の森からつながる人

- ・参加者の感想
- ・吉野川紀の川源流人会

1. 吉野川源流—水源地の森の概要

川上村は奈良県南東部に位置し、面積の96%を森林が占める。吉野林業発祥の地であり、約500年前から植林が進められ、多くは吉野スギ・ヒノキの人工林である。しかし、吉野川紀の川源流部、三之公川流域の一帯には貴重な天然林が残されている。

川上村は“下流にはいつもきれいな水を流します”という思いのもと「川上宣言」を全国に発信。これらの具現化策として、そのうちの740haを購入し、村有林として保全し、詳しい生態系調査を進める一方で、森林学習の場として活用している。標高が480～1,050m と高低差があり、沢沿いにはトチノキ、シオジ、サワグルミ、カツラなど、標高が上がるにつれ、ツクバネガシやウラジログシの常緑広葉樹、ツガ、モミ、トガサワラの針葉樹、ブナ、ミズナラの優先する落葉広葉樹林となる。岩尾根には、コウヤマキ、ゴヨウマツ、ホンシャクナゲなど、痩せた立地を好む植物がみられる。植物地理学ではこの辺りは「ソハヤキ地区」と呼ばれ、アワモリショウマ、ヤハズアジサイ、ズイナ、フジシダ、ヒメシャラ、モチツツジ、ウラジロモミなどの特徴的な植物が依存的に生育している。ツキノワグマ、ナガレヒキガエル、アマゴなどの動物も生息し、豊かな生態系を築く。

2. 水源地の森での体験学習

水源地の森ツアーでは、一般に参加者を募集したり、小学校の校外学習を受け入れたり、吉野川紀の川の源流、和歌山・奈良県の人々が利用する水のふるさとの森で、自然に親し

みながら、森の役割や水の大切さに気づくプログラムになっている。大学や企業、生涯学習グループなど、水源地の森のすぐ周辺にある人工林や伐採され再生しつつある二次林と比較しながら、より詳しく森林の機能や水の環境について学んだり、川上村が取り組む「水源地の村づくり」について知ったり、村民の方から山の暮らしの知恵や工夫などを習ったり、様々な側面を切り取ることも一貫して体験することもできる。

森と水のワークショップでは、小学4～中学3年生を対象に、森や川の探検、遊び、キャンプをとおして生きる力を学ぶとともに、自然の恵みを感じるプログラムになっている。

3. 水源地の森からつながる人

体験学習の場として水源地の森を利用する人は年間500人前後ある。とくに、吉野川紀の川流域や吉野川分水流域市町村からの利用が多く、いつも使う水の生まれる森を大切にしたい、水を汚さないようにしたい、という感想をいただくとともに、森のために間伐材の割り箸を使う、知人に勧めるなどの報告もいただく。

小学校の校外学習で参加した子供が、次は家族と一般のツアーに参加したり、大学の授業の一環として継続して参加したり、プログラムに参加した人から源流人会（森と水の源流館友の会）に入会したり、ボランティアガイドとして手伝ったり、生態系調査に同行したりするなど、繰り返し参加する人もいる。

今後も、水源地の森とともに保全し、多くの人々と森や水の大切さを共有できる活動に取り組みたい。